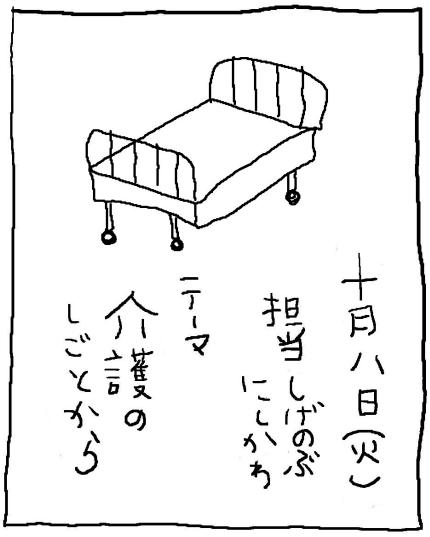
OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	福井高校での授業を終えて
Author(s)	重信, 嘉彦
Citation	臨床哲学のメチエ. 2003, 11, p. 30-31
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/5127
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka



10 月 8 日
五時間目
寝返りについて　重信

福井高校での授業を終えて

重信嘉彦

私は平成１４年１０月8日(日)５限目に、『寝返りについて～介護の場面での一場面～』というテーマで授業を実施した。当日、実習室(教室)で学生を最初に見たときの印象は、「噂通りの学生たち。これから1時間も長いな」と感じた。

事前打ち合わせの時や、既に授業を終えられていた方たちから、学生の様子を聞いていただけに、少し不安を抱えた状態で授業を開始した。授業が始まってからの学生たちの態度は、正直なところあまり褒められたものではなかった。授業前とあまり変わらない態度であった。友達同士で話をしてばかりで、私の話を聞いているものはいない。

私自身今回の授業にあたり計画書を作成する中で、かしこまった状態で授業を進めるのではなく、介護の現場での様子を紹介することで少しでも介護に対して関心を持ってほしい。そういった思いがあったので、最初の挨拶では「気楽な気持ちで僕の話を聞いてください。」「少しでも介護のことを分かってもらったら今日の授業は充分です」と言った。

今振り返ると、その発言が反省点の始まりであったと思う。

授業内容は以下の通りである。

Ⅰ導入：1）講師自己紹介
2）今回の授業のねらいについて
Ⅱ実習オリエンテーション：1）授業のタイムプログラムの説明
Ⅲ実習：1）寝返りについて
2）寝返り（説明なし）
3）寝返り（説明あり）
Ⅳ意見発表：1）寝返り介助を実際に実施しての感想発表
Ⅴまとめ

Ⅰ導入では、同居家族に高齢者がいてないこともあり、介護に関心がない学生が多い中で、1名だけ介護（老人介護）に興味を持っている学生（男子学生）がいた。授業を進めていく中でこの学生をパートナー的存在にしよう

と考えた。しかし、この学生は控えめな性格だったのか、私が発言を求めてもあまり積極的な返答はなかった。この学生だけでなく、授業に参加していた学生全員が積極的に参加をしていたわけでないようであり、その後の授業進行が円滑に出来なかったことは私の誤算であった。

Ⅱ実習オリエンテーション・Ⅲ実習では、まず今回の授業テーマである『寝返り』の必要性を説明した。「介護の現場での仕事とは?」と聞かれてイメージするのが、食事介助やおむつ交換（排泄介助）などをイメージする人が多いと思う。しかし、『寝返り（介助）』をイメージする人（学生）はいてないと考えた。（実際にそうであった。）学生には褥瘡の写真を見せることで、『寝返り』の介助の必要性や、寝返り介助も介護の中では重要な介護であることは理解してもらえたと思う。

続いて寝返り介助を実際に実践してもらった。ここでのポイントは、『相手の身体を動かすのに力は必要でないこと』を伝えることにしていたが、学生たちの消極的な授業態度（ふざけた態度）で、それは不十分なものになってしまった。これは学生が介護に関心がないことや、実習をするにあたり照れなどがあったことが挙げられると思う。

Ⅳ意見交換では、それまでの授業の雰囲気が影響して発言は少なかった。（無かったに等しいと感じた。）学生の多くが、私（講師）が話をしている時には相手の話を聞かずに自分たちは好き好きに話をしている。発言を求められると、先程までの騒がしさが嘘のように黙り込む。意見交換とは程遠い状況になってしまった。

Ⅴまとめでは、私が今回の授業で最低限伝えたかったことだけを話した。学生たちは一応に静かにして、私の話を聞いてくれていたと感じられた。このことは感謝している。

授業進行があまりにも早くなってしまい、授業時間が大幅に余ってしまったために、学生から私に対して質問をすることになった。学生のほとんどが「別に質問はない」とのことであったが、一人の学生から「褥瘡は何歳くらいからできるんですか?」との質問があった。それまで私自身「質問されても答える気にならんわ!」と思っていただけに、この学生からの質問を受けた時に「最悪な状態での授業ではあったが、介護現場の一場面を少しは伝えることが出来た」と思うことができたことが私自身大きな感想であった。

最後に、私はこれまで施設職員の指導者として、実習生を相手に教えることを何度か経験しているが、介護に興味のない学生に教えることの難しさを感じた。

関心がない学生に対して、どこまで伝える必要があるのか?介護に関心がある高校2年生には、どこまで伝えることが出来たのであろうか?今回の授業に参加した学生は、何を得たのかが知りたいという思いもある。（たぶん何も得たものはないと思うが・・・。）

（しげのぶよしひこ　医療法人ガラシア会介護老人保健施設ニューライフガラシア　介護福祉士）